

地域の水田農業を考える

～ 深刻な問題が山積み～

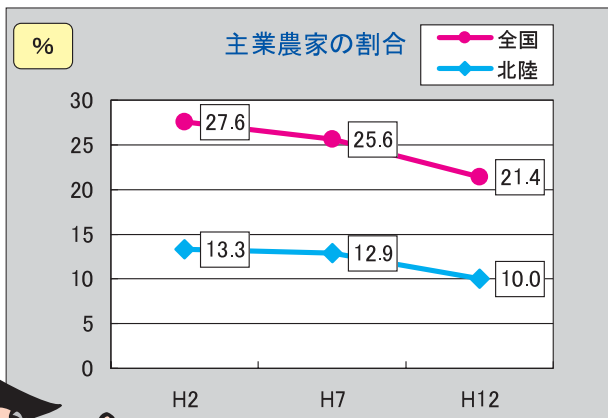
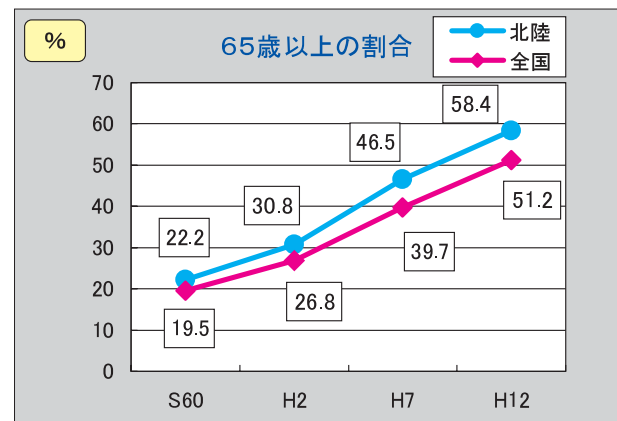
北陸農政局

農家の働き手・担い手が...

北陸4県の状況

1

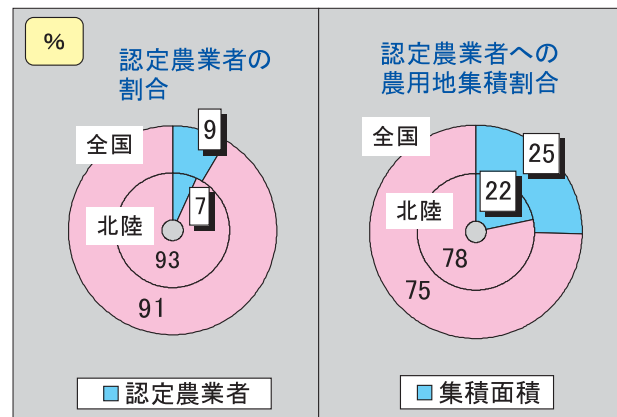
ふだん農業を主として従事している人のうち65歳以上の割合は、6割弱と高齢化が進んでいます。



2

農業所得が主の農家は1万9千戸で、全農家に占める割合が10%と全国平均に比べて、非常に低いものとなっています。

農家 = 販売農家



3

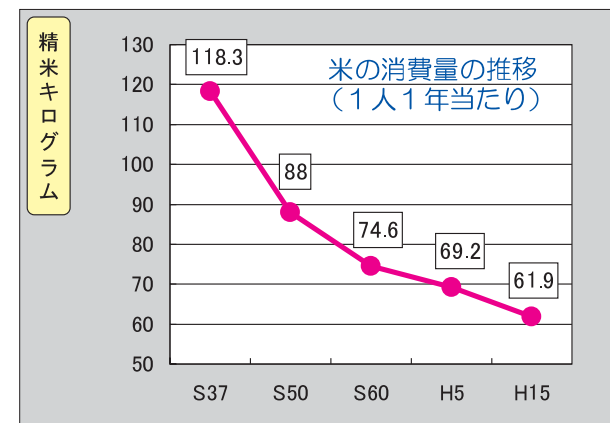
全農家に占める認定農業者や認定農業者への農用地の集積割合は、全国・北陸ともまだまだ低いものとなっています。

農家 = 販売農家

お米の消費、将来は？

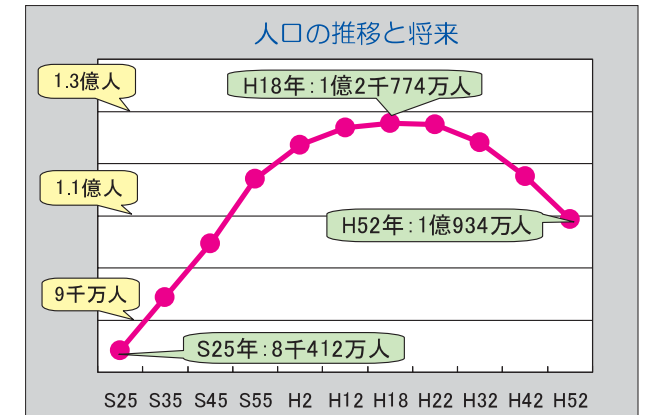
1

一人当たりのお米の消費量は、この40年間で半分（2俵から1俵）に減りました。



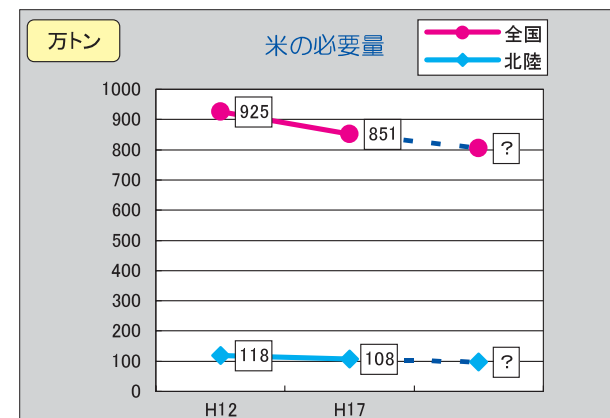
2

人口も、これからは減り始めます。したがって、このままではお米の消費は一層減少すると見込まれます。

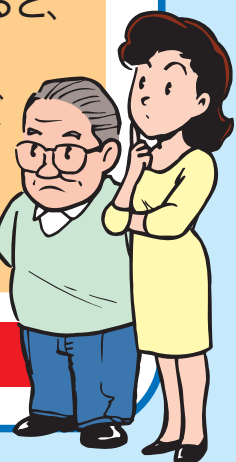


3

全部の田んぼに稲を作付けすると、お米は売れ残り必ず余ります。何とかして、お米のニーズを拡大したうえで米づくりを進めなければなりません。



お米は、需要動向を、考えて作りましょう。



～ これからの水田農業 ～

1 10年後、あなたの家や集落の農業は大丈夫ですか？

問題点・課題を先送りせず、将来の方向を具体的に考えましょう

体が丈夫なうちは
続けるんだ～

でも10年後は
大丈夫かな～？？

担い手農家など
へ委託しよう

地代収入が入ってくる。
機械の更新の心配もな
くなる。農地も守れる。

集落営農に
参加するぞ！

役割分担し、除草や水
管理などはこれまでの
経験をいかして貢献

いきいきファーマーとは
認定農業者の愛称です。

2 集落全体で今後のことを真剣に話し合っ て、将来のビジョン（担い手や営農計画）を決めましょ う。

ビジョンをどう描く

担い手をどうしよう

農地の貸し借りは
どうしよう

地産地消を進めたい

米・麦・大豆の
作付計画は

産地づくり交付金の
使い方を工夫しよう

3 ニーズに見合った、お米を生産しましょう。

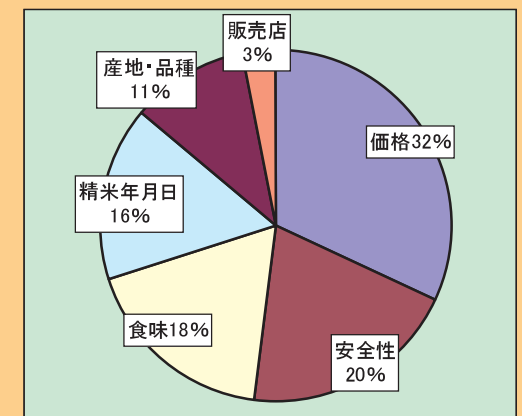
消費者や加工業者のニーズ

- 少くとも高くてもいいから、安全・安心なお米がほしい。
- 味噌・米菓・米粉パンの原料に、安い国産米がほしい。
- 業務用に、品質の安定したお米を一定ロットでほしい。
- 酒造適性が高い、品質の良いお米がほしい。
- 米や麦・大豆を、安定的に供給してほしい。

どんな米を作ったら
売れるかな？

消費者の声！ お米を買うときの判断基準は！

価格・安全性・食味を
参考にしています



（お問い合わせ先）

北陸農政局(石川) Tel.(代表) (076)263-2161 ホームページ <http://www.hokuriku.maff.go.jp>
 新潟農政事務所 Tel.(代表) (025)228-5213 ホームページ <http://www.hokuriku.maff.go.jp/nousei/niigata/index.htm>
 富山農政事務所 Tel.(代表) (076)421-6142 ホームページ <http://www.hokuriku.maff.go.jp/nousei/toyama/index.htm>
 福井農政事務所 Tel.(代表) (0776)35-3225 ホームページ <http://www.hokuriku.maff.go.jp/nousei/fukui/index.htm>